平 成 20年 度

地 域 振 興 会 事 例 集

海老江地域振興会

戸破地域振興会

ふたくち地域振興会

大島地域振興会

下地区まちづくり地域振興会

平 成 20年 12月

射 水 市 市 民 協 働 課

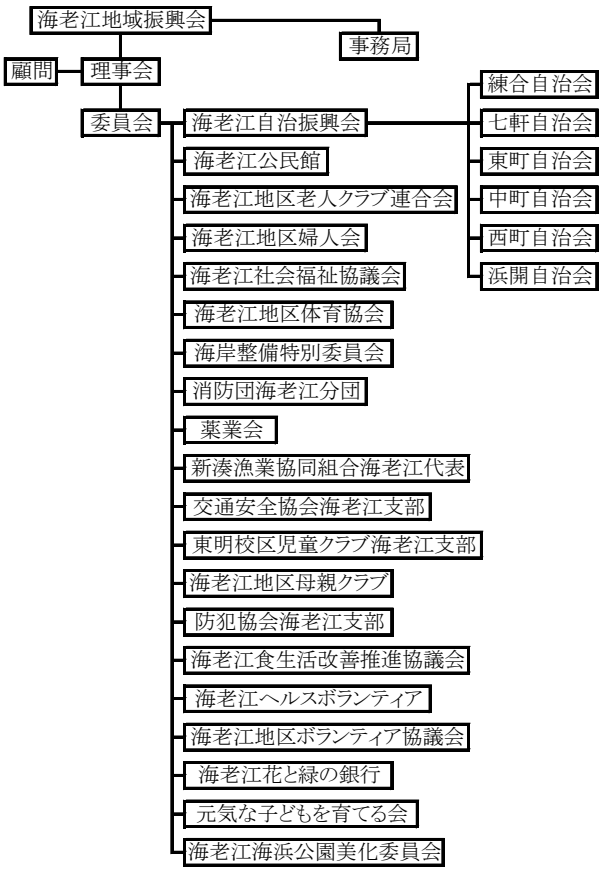
海　老　江　地　域　振　興　会

平成 20 年 11 月 1 日作成

地域振興会データ

住所	射水市海老江 1082 番地 海老江公民館内
電話番号/FAX	８６－００４１
設立年月日	平成 20 年 4 月 10 日
世帯数	996 世帯（H20.4.1）

組織図



地域特性

海老江地区は射水市の北東部に位置し、東西に 3.2 ㎞南北に 900m と帯状に細長い町で 996 世帯約 3,000 人が住むコンパクトな町である。かつては北前船で栄え、その時の名残りとして豪華な曳山が 3 本ある。戦後は売薬の町として発展してきたが、近年はほとんどの人がサラリーマンとして生計を立てている。朝夕に眺める富山湾は、私たちにとってはまさに心の故郷であるが、一変して“おおあい”(強い北風)が吹き魔の海に変貌する。海老江の歴史は波浪との闘いでもある。

主な活動

○市が行っている事業の実施

1	防犯灯修繕	灯数　355 灯
2	公園維持管理	除草面積　9,151 ㎡
3	敬老事業	対象人数　371 人
4	除排雪事業	機械台数　ミニショベル 1 台

○自主的な地域づくり事業の実施

海浜公園維持管理

かつては、海老江海岸や越の潟などに海水浴場があったが、昭和 36 年からの富山新港の建設や海岸侵食などですべて消滅した。私たちは、長年、海水浴場の復活を関係機関へ強く要望してきた。国、県で海岸侵食対策事業など人工ビーチを含む海浜公園の整備が決まり、平成 15 年度から本格的に工事が始まった。そして平成 18 年度に一部完成し、

オープンすることになった。県が整備した海浜公園（海水浴場）の管理運営について、県、市と地元（海老江自治振興会）が協議の上、私たちは「地区民の長年の夢が実現したことへの恩返し」ということで、海老江地区全体で取り組むことになり、振興会に新たな組織(海老江海浜公園美化委員会)を設けることになった。

海老江海浜公園美化委員会は、次の８つのグループで構成されている。

①企画管理グループ
②除草管理グループ
③便所・シャワー(更衣室)棟の清掃管理グループ
④美化巡回整備管理グループ
⑤海岸整備管理グループ
⑥樹木害虫防除管理グループ
⑦門扉管理グループ
⑧海水浴場監視グループ

以上のグループを決めて、グループ別ボランティアを募集したところ、“地域力の結集”の結果として 16 歳から 92 歳まで延べ 144 名の応募があった。グループのバラツキもあったが、個々人の意思を尊重しようとの結論になり、実践活動をスタートした。雨の日、雪の日、あいの風が吹き肌寒い日など日々いろいろあったが、自分たちで計画、実施、点検活動を行い、グループ全員参加で責任を持ち「ひとりひとりが主役」になったのではないだろうか。そして、地域以外の人達に「キレイになったね、住んでみたいね」と思われるようにこれからもグループ全員で海浜公園、環境清掃活動に全力投球していきたい。

今後の課題

現在、様々な課題を抱えながらも、地域の発展を夢見て 140 名を超える方々と活動（管理運営）をしているが、年齢もそう若くなく今やっている活動をどう次世代に伝え、後継者を育成するかが大きな問題である。

明るい話題としては、地元、射北中学校生徒会が「ゴミのポイ捨ては絶対にやめて欲しい」と訴え、全校生徒に呼びかけて地域美化標語を募集して看板を作成し校区に取り付けるなど、清掃活動に積極的に取り組んでおり、少しは安心しているが時間がかかりそうである。

しかし、「親の背中を見て子は育つ」といわれるように、私たちが一生懸命に活動をすれば、必ずや後世に引き継がれると信じて今日もがんばっている。

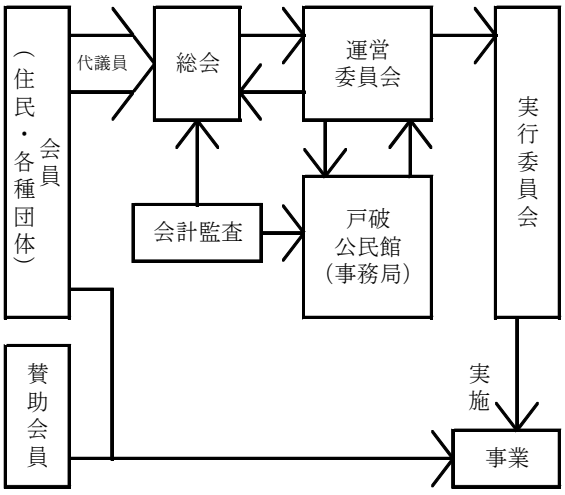
戸　破　地　域　振　興　会

平成 20 年 11 月 1 日作成

地域振興会データ

住所	射水市戸破 2917 番地 1 戸破公民館内
電話番号/FAX	５５－３９４８
ＨＰ	http://hibarinet.web.infoseek.co.jp
設立年月日	平成 20 年 4 月 20 日
世帯数	2,541 世帯（H20.4.1）

組織図



戸破地域振興会は、「ネットワークひばり」の愛称を持つ。地域に暮らす誰もが郷土に愛着を持って、活き活きと安心して暮らせる住みよいまちづくりを進めるため、一人ひとりがそれぞれの能力を発揮、活躍し、そして地域全体で意見を出し合い、連携、協力して活動していくコミュニティづくりのテーブルと位置づけ、町内会、婦人会、体育協会、長寿会協議会等の２０余の団体で構成する。

平成１９年度から自治会が主体となって住民自治について協議を進め、平成２０年春に地域振興会を立ち上げた。

１年目を「種まき・発芽期間」とし、既存事業を基にした活動に取り組み、住民の意識づくりや地域の将来ビジョンを策定する。続く３か年を「成長、開花期間」とし、計画に基づく活動を始動させ、軌道に乗せる。そしてその翌年からを「結実期間」とし、組織体制が確立し、活動が活発となる成熟段階と位置づけ、計画的に住民と住民、住民と行政が協働する地域づくりを行っていく。

地域特性

戸破地区は射水市の南東部、旧小杉町の中央部に位置し、古くは加賀藩の宿場町として栄え、今でも旧北陸道沿いに往時のにぎわいをしのばせる歴史的建造物が多く残る。一方、近年ではＪＲ北陸本線南部での住宅街や商業ゾーンの進展にともない、射水市でも発展の顕著な地域である。

主な活動

○市が行っている事業の実施

1	防犯灯修繕	灯数　600 灯
2	公園維持管理	除草面積　4,862 ㎡
3	敬老事業	対象人数　721 人
4	除排雪事業	機械台数　ミニショベル２台 ２ｔダンプトラック１台

○自主的な地域づくり事業の実施

戸破地域振興会では、実行委員会を立ち上げ、各委員会が主体となって活動を展開する。

①広報活動

これまでの“ひばり広報”(自治会発行)を引き継ぎ、戸破地域振興会だより“ネットワークひばり”を年４回発行する。また、逐次振興会の活動情報等を紹介し、住民への参画を働きかけるとともに、地域外へ情報を発信するためホームページを開設する。

②高齢者生きがい対策活動

高齢者が活き活きと地域で暮らしていけるように地区敬老会、地区サロン交流会、異世代交流やひとり暮らし高齢者見守り等の活動を行っている。

異世代交流のタイ

③環境美化・保全活動

クリーン作戦に合わせた地域清掃活動や花いっぱい運動、ごみ減量化推進活動、地域ぐるみ害虫対策等の活動を行っている。

毎月第３日曜日の資源の拠点回収

④地域安全・安心活動

地域の安全は地域の力でと自主防犯パトロール隊(地区内５隊)によるパトロールや啓発、防災意識の高揚を図り、災害時には迅速かつ的確に対応が行えるように実践的な自主総合防災訓練や、交通安全の啓発を行っている。また、行政が行えない住民の身の回りやひとり暮らし高齢者・障害者等弱者家庭の除雪等の活動を行っている。

⑤地域の歴史と文化発掘伝承活動

歴史・文化を形成しまちづくりに活用すべき資源が多く残っており、それらを発掘、伝承し、内外へ紹介する活動を行っている。

今後の課題

地域振興を広く地域住民に根付かせ、いろいろな課題に柔軟に対応できるよう部会制導入と、それぞれの部会が主体となって活動できるよう、複数の人材の得意技を活かしたリーダー群づくりが必要である。

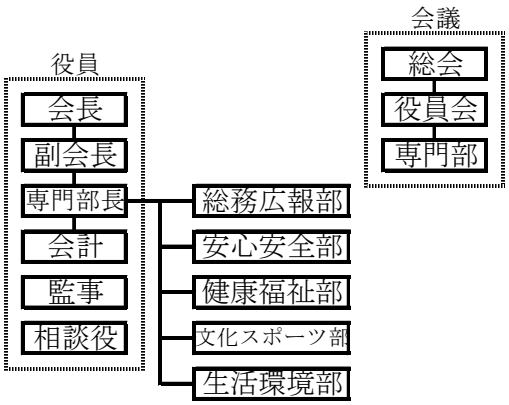
ふ　た　く　ち　地　域　振　興　会

平成２０年１１月１日作成

地域振興会データ

住所	射水市二口 3051 番地 二口公民館内
電話番号/FAX	５２－００６４
ＨＰ	http://www.i-imizu.jp/futakuchi
設立年月日	平成 20 年 4 月 19 日
世帯数	1,137 世帯（H20.4.1）

組織図



地域特性

現在の二口地区は、明治 22 年 4 月から昭和 29 年 3 月までの 65 年間、二口村として歩んできたが、町村合併により大門町二口地区となった。面積 3.39 ㎢の農村と住宅団地が混在する地域として人口が増え、昭和 29 年の 320 世帯、1,889 人が、平成 20 年には 1,137 世帯、3,730 人にまで増加してきた。

旧大門町であった頃には、町の文教地区として集中的に開発が行われた結果、地区内には産科医、統合新設保育園、統合新設幼稚園、統合新設小学校、中学校、高校、病院、交番、消防署出張所、緑地公園、老人ホームと生活する上で必要な様々な施設が整備され、安心安全な住みよいまちとして発展を続けている。

また、後世に伝承すべき文化財として、二口熊野社において例年９月８日に開催される火渡り神事がある。これは、山伏によって伝えられ、火によって穢れを焼き払うものといわれ、燃え盛る火の中を獅子が渡るという勇壮な神事である。

主な活動

○市が行っている事業の実施

1	防犯灯修繕	灯数　476 灯
2	公園維持管理	除草面積　2,607 ㎡
3	敬老事業	対象人数　438 人
4	除排雪事業	機械台数　歩道除雪機2 台

○自主的な地域づくり事業の実施

① 広報誌発行

活動内容を広く周知するために、広報誌を発行している。第１号は、5 月 10 日付けで発行し、設立総会の詳細、各専門部会の紹介や計画などで構成されている。第２号は、9 月 10 日付けで発行し、各専門部会の活動状況について紹介する構成となっている。

② 交通安全運動街頭指導

交通安全協会等と連携協力して、春、夏、秋、年末の各期の 10 日間、朝の時間帯に地域内全域の道路において街頭指導を行っている。

このうち、春については５月 12 日（月）から 23 日（金）にかけて各自治会地内 18 箇所に総員 180 名により児童生徒の通学時の安全を守るために実施された。

③ 三世代交流ふれあいの集い

８月１７日（日）、大門小学校体育館においてふれあいの集いを開催し、三世代交流を図った。

参加した児童たちは、慣れない手つきながら、教わりながら一生懸命竹とんぼや小鳥笛など竹細工、折り紙を使った部屋飾りなどを製作した。この体験を通じて、テレビゲームなどでは味わえない、昔ながらの自然を生かした遊びを体験することができたと同時に、祖父母世代の参加者も特技を披露したり、みんなとふれあうことができた。

④ 福祉マップ作成

各地区自治会において災害時要援護者名簿を整備しているところであるが、ふたくち地域振興会においては、独自の事業として、地区社会福祉協議会とも連携協力し対象世帯の生活状況確認調査を実施し、災害支援台帳及びマップを整備し、市から提示された資料とも照合して完成することとしている。

⑤ 親子クリーン・エコ教室

母親クラブ等と協力し、ゴミ処理施設であるクリーンピア射水において、親子で施設見学や廃油石鹸をつくる等のエコ体験活動により、環境を守る意識を向上させる。8 月 27 日(水)には親子 32 名が参加し、クリーンピア射水やミライクル館を見学、体験した。牛乳パックによる手作りのハガキづくりなど、貴重なエコ体験を通じて自然や環境を守る大切さを学び、夏休みの思い出にした。

今後の課題

二口地区は、地域振興会設立以前から各種団体が連携していたため、スムーズに地域振興会へ事業の移行ができたといえる。例えば敬老会事業と公民館まつりを連携して実施することにより、参加者数の増大につながるなどの相乗効果を得られている。

しかし現在、地域振興会の会議や活動において、役員が果たす役割の比重が大きくなっているのと、活動内容等が地域住民に十分認知されているかどうかという疑問もある。

今後、どのように事業のＰＲを進め、地域に根ざした活動として浸透させていくかという課題も抱えている。

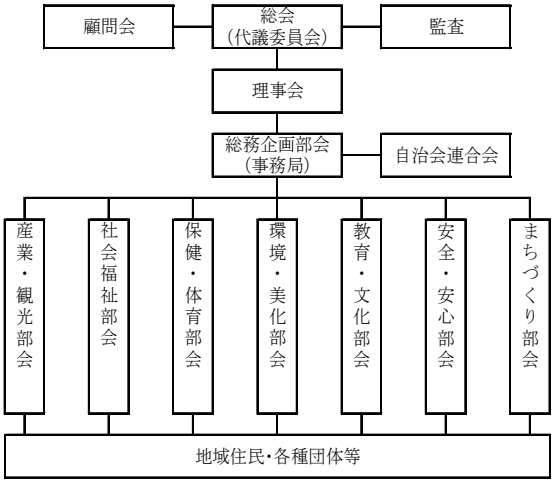
大　島　地　域　振　興　会

平成 20 年 11 月 1 日作成

地域振興会データ

住所	射水市小島 703 番地 大島公民館内
電話番号/FAX	５２－７９１０（内線７８５１）
設立年月日	平成 20 年 4 月 13 日
世帯数	3,331 世帯（H20.4.1）

組織図



地域特性

大島地区は射水市中西部に位置し、東西約４．４ｋｍ、南北約３．２ｋｍの楕円形をしている。１８８９年の町村制施行以来、射水市の誕生まで他市町村と合併することなく、農村から都市近郊の商工業地へと発展してきた。近年では交通の便の良さから富山市や高岡市のベッドタウンとして宅地開発が盛んに行われ、人口が大きく増加した。また、大島絵本館を中心とした「絵本のまち」としてまちづくりが進められてきた。

主な活動

○市が行っている事業の実施

1	防犯灯修繕	灯数　869 灯
2	公園維持管理	除草面積　24,525 ㎡
3	敬老事業	対象人数　1,053 人
4	除排雪事業	機械台数　ミニショベル 3 台

○自主的な地域づくり事業の実施

① 小島地区防災訓練

７月６日（日）午前７時３０分から、小島１区から４区までの４自治会、自主防災会、防災関係機関が、相互に緊密な協力関係を確立し、災害時の実践的な対応を習得するとともに、地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的として防災訓練を実施した。

小島地区の２，４００人の住民を対象に、午前７時３０分に富山湾沖を震源とする震度６強の地震が発生したと想定し、被災状況確認訓練、情報収集訓練、避難場所となったアプリオ西側駐車場までの避難誘導訓練を行った。この日参加した約６００人は、射水消防署員の指導のもと、救急訓練（応急手当、応急担架作成、心肺蘇生法など）、初期消火訓練、１１９番通報訓練、煙体験訓練を行った。終了後には大島赤十字奉仕団と自治会の女性らによる炊き出し訓練も行われ、参加者にカレーライスの炊き出しが振る舞われた。

１０月１２日（日）には西部地区、１０月１９日（日）には南部地区で同様の防災訓練を実施した。

② 大島地区クリーン作戦

８月１０日（日）午前６時から、大島地区環境衛生振興会が中心となってクリーン作戦を実施した。参加者６５名が、「中央公園、絵本館、弓道場」と「庄川河川公園」の２箇所に分かれて散乱するごみの回収を行った。

③ 戦没者慰霊祭

８月１２日（火）大島小学校のグラウンド南側にある忠魂碑の前で慰霊祭が営まれ、大島地区の遺族会や郷友会・軍恩連名会員、自治会関係者ら約６０人が碑の前に設けられた祭壇に花をささげ、戦没者の冥福と恒久平和を祈った。

この慰霊祭に先立ち、早朝５時から地域振興会の社会福祉部会員や遺族会員約２０名によって碑の周辺の清掃奉仕活動が行われ、除草やごみ拾いに汗を流した。

今後の課題

「地域振興会とは何か？」ということが、地区全体に浸透していないことが挙げられる。また、大島地域振興会では部会制をとっており、部会ごとの活動に差が出てきている。地域振興会を地区全体に浸透させるため、広報誌等でさらに啓発し、全部会の活動を活性化させていくことが必要である。

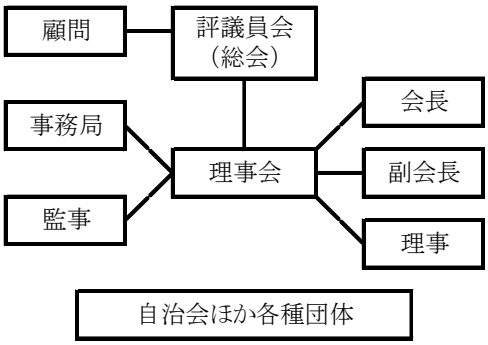
下 地 区 ま ち づ く り 地 域 振 興 会

平成２０年１２月１日作成

地域振興会データ

住所	射水市加茂中部 893 番地 下村公民館内
電話番号/FAX	５９－２５６３
設立年月日	平成 20 年 4 月 27 日
世帯数	592 世帯（H20.4.1）

組織図



地域特性

射水市の北東部に位置する下地区には、京都下鴨神社の神領、倉垣荘の総社である加茂神社がある。「鰤分け神事」、「流鏑馬」、「御田植祭り」、「稚児舞」という珍しい祭礼が伝承され、毎年多くの観光客が訪れる。

また、稲作中心の生活を長く営んでおり、昭和４０年代半ばまでの美しい水郷風景を懐かしむことができる「水郷の里」には、当時、稲を干すはさとして使われた「とねりこ」が植えられ、緑と水の憩いの空間となっている。パークゴルフ場も整備されており、老若男女問わず楽しむことができる。

主な活動

○市が行っている事業の実施

1	防犯灯修繕	灯数　131 灯
2	公園維持管理	除草面積　20,063 ㎡
3	敬老事業	対象人数　266 人
4	除排雪事業	機械台数　ミニショベル 4 台

○自主的な地域づくり事業の実施

① 下地区美化クリーン活動

４月２９日（祝）晴天の下、自治会・一般住民約９０名が参加し約２時間清掃活動に汗を流した。これは「やんさんま」の前に下地区全域を清掃し観光客を気持ち良く迎えようというものである。

このクリーン活動は昨年までも実施していたが、各自治会において実施日もバラバラで活動していた。これを下地区全域で一斉に清掃活動することで、クリーン活動の効率・成果を上げると共に住民間の結束・団結力を高める狙いがある。なお、拾い集めたゴミは２ｔトラックで３台分にもなった。

② 越中だいもん凧まつりへの参加

５月 18 日（日）地域振興会から凧まつりに１５名参加した。約３畳の大凧を会員が一致協力して大空高く上げた。地域振興会として積極的に行事に

参加し、会員相互の親睦を深めたい。

③　納涼祭の実施

８月９日（土）下地区の住民の親睦と交流を図ることを目的に、初の試みとして納涼祭を実施した。自治会、スポーツクラブまいけ、商工会、ＰＴＡ、婦人会の４団体が中心となり、準備・運営に当たった。当日は約３００人の参加者があり、歌手の「山口かおる」のステージやウインドアンサンブル「一期一会」の演奏、よさこい踊り、抽選会などで大いに盛り上がった。

また、焼きそば、焼き鳥、ビール、ジュースなどの飲食コーナーにも力を入れ、子どもからお年寄りまで楽しめるように内容に苦心した。

今後はこの納涼祭をさらに充実させ、下地区住民が一体となり、楽しめる事業にしていきたい。

④　三世代で学ぶ「下村の農業・農地用水の移り変わり」の実施

10 月 19 日（日）に下地区の世代間交流を図ることを目的に、下地区の歴史と農業を学ぶ三世代交流会を実施した。

当日は、長年下地区の世話をされた方を講師に招き、下村小学校４年生児童とその保護者など 40 人の参加があった。午前中に射水平野土地改良区や排水機場、下村民俗資料館を見聞した後、下村公民館で牛ヶ首用水の歴史などの話を聞いた。

今回の交流会で、射水平野の農村環境が農地整備と乾田化事業により大きく変化したことを再認識した。今後は、地域の歴史を生かし、地域の発展に活躍する人づくりをしていきたい。

⑤　敬老会の実施

１１月１日（土）多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝うことを目的に下地区敬老会を実施した。自治会、芸術文化協会、社会福祉協議会や婦人会、その他各種団体で準備と運営を行い、伝統ある敬老会を盛大に行った。

ステージ発表では、小学生の踊りもあり、下地区の各世代が参加する有意義なものとなった。

地域振興会として敬老会を各種団体と円滑に行うことができたと考えており、これからも敬老会の内容を充実できるよう努力していきたい。

今後の課題

地域振興会の設立当初は、各種団体相互の連絡・調整等がうまく出来ないことが多々あった。しかし、それでも行事を実施していく内に徐々に各種団体との連携・協力が円滑に出来るようになってきた。特に納涼祭の実施に当たっては、計画・準備において苦労があったが、納涼祭をやり遂げたことで、地域振興会の組織力・団結力が高まったと感じている。結局、まちづくりの根底は人づくりであることから、今後も地域振興会を構成する各種団体との人づくりを重視し、地域のまちづくりを担う組織に成長したい。